

令和6年度第1回予防接種対策委員会 会議録

- 1 開催日時
令和6年11月5日（火）
開会 午後2時
閉会 午後3時
- 2 開催場所
尾張旭市保健福祉センター 4階 シアタールーム
- 3 出席した委員（5名）
松尾功、佐伯公、加藤誠章、新川成哲、大江英之
- 4 欠席した委員（2名）
澁谷いつみ、森下雅史
- 5 傍聴者数
0名
- 6 出席した事務局職員
健康課長 西尾哲弥、健康課長補佐兼感染症対策係長 北村亜紀子、
健康課感染症対策係 主査 澤田仁美、健康課感染症対策係 主査 廣岡真由美、
- 7 議題等
 - (1) 委員長及び副委員長の選出について
 - (2) 令和5年度及び令和6年度尾張旭市予防接種実施状況について
 - (3) 予防接種間違い事例について
 - (4) 令和7年度尾張旭市予防接種実施計画（案）について
 - (5) その他
- 8 会議の要旨

1 開会	
事務局	健康課長より開会宣言
2 議題	
(1) 委員長及び副委員長の選出について 委員長：松尾委員 副委員長（職務代理者）：佐伯委員	
委員長	挨拶 昨年、皆様のお力添えのおかげで委員会を開催することができた。近年、予防接種を取り巻く環境が変わってきたため、今年も皆様の忌憚のないご意見をお聞かせ願いたい。
(2) 令和5年度及び令和6年度尾張旭市予防接種実施状況について 資料に基づき説明。	
委員 A	BCG が個別接種に移行したが、接種率は高く維持している。ひっかき傷などの報告

	はないか。
事務局	今日現在、医療機関からひっかき傷などの報告はない。
委員 A	乳児期の予防接種率は大変良いが、幼児期の接種率があまり良くない。特に MR2 期の接種率を向上させたいが、何か対策は考えているか。
事務局	就学時健診時の予防接種実施状況調査票を学校教育課から受け取り、健康課で接種履歴を把握している。今年度も未接種者へ勸奨はがきを送付予定。また、その後も接種率が伸び悩むようであれば、未接種者へ電話勸奨も検討する。
委員 B	BCG のひっかき傷以外でのコッホや気になる問い合わせはないか。
事務局	医療機関から、コッホや気になる問い合わせもない。
委員 A	肺炎球菌の 15 価と 20 価の交互接種について教えていただきたい。
事務局	定期接種実施要領には、原則として、同一のワクチンで接種を完遂することになるが、転居等のやむを得ない場合は、交互接種が認めれるので、間違い接種にはならない。
委員 A	交互接種をした場合、市の方から調査をすることはあるか。
事務局	基本的に、転居等のやむを得ない事情と判断するため、市から調査をすることは考えていない。
委員 C	転居以外での交互接種について、医師の裁量で接種を行っても良いか。
事務局	やむを得ない事情があったと医師が判断されたのであれば、市は定期接種と判断する。

(3) 予防接種間違い事例について

資料に基づき説明。

委員 A	事例 4 の間違い接種について、母子健康手帳に接種の記載がなく、本人も接種履歴が不明の場合は、市に問い合わせで確認したら良いのか。
事務局	接種履歴が不明な場合は、市に問い合わせをしていただきたいが、転入の場合は、本市で履歴が確認できない。被接種者が転入前の市に問い合わせてもらうことになる。
委員 A	キャッチアップ接種対象者が接種履歴もなく、打ったことがないと言われたら、打ってしまいそうになるが、対策はどのようなか。また、今回の費用は誰が負担したのか。
事務局	<p>医師会を通した周知のとおり、子宮頸がんワクチン等緊急促進事業の対象者かつキャッチアップ対象者（平成 9 年生まれ～平成 12 生まれ）は、市が発行した子宮頸がん予防接種カードで接種記録を管理していた可能性が高いため、母子健康手帳への記載がない場合は、カードの確認もお願いしたい。その当時の母子健康手帳には、HPV の接種を記載するページはなかったため、国のひな形を参考にカードで管理をした経緯がある。</p> <p>今回のケースは、医療機関は母子健康手帳も確認し、本人にも接種履歴の確認をしていた。その上で、子宮頸がん予防接種カードでの履歴確認の周知を行っていなかったことから、医療機関に非はないケースと判断し、市が費用を負担した。</p>

委員長	事例4はガーダシルを2回接種しているが、3回目はガーダシルを接種する必要があるか。
事務局	HPVに関しては、交接種の互換性は認められているため、3回目はシルガード9を接種しても問題ない。
委員長	当院でも2回ガーダシルを接種したキャッチアップ対象者ケースがあり、3回目はシルガード9を接種した。対象者に説明をする必要があるため、効果はどのようなか知りたい。
委員D	ガーダシルは、子宮頸がんの原因の2タイプに効果があり、また、子宮頸がん以外の原因のもう2タイプにも効果がある。シルガード9は、ヨーロッパなどの海外で1回接種としており、1回でも意義がある。よって、追加接種はシルガード9にすることで、持続効果が長くなり、将来の免疫効果も期待できるため性感染しにくい。個人的には、シルガード9を追加接種にすることで有効性があると考えます。
委員長	尾張旭市では、新型コロナワクチン接種でレプリコンワクチンを接種しているところがあると聞いたがいかがか。
事務局	市は医療機関が何のコロナワクチンを取り扱っているのか把握していない。
(4) 令和7年度尾張旭市予防接種事業実施計画(案)について 資料に基づき説明。	
委員A	シルガード9について、15歳未満は2回接種となっているが、3回目接種を希望した場合、接種しても良いか。
事務局	県からのQAでは、15歳未満でも既定の間隔を空ければ3回接種しても問題ないと言われている。
委員D	HPVワクチンのキャッチアップ接種について、最短接種ができない11月以降の接種スケジュールについて、どのように推奨していけばよいか。
事務局	標準的な接種を推奨していただきたい。例えば、1回目は12月、2回目は2月、3回目は6月といったようなスケジュールを想定している。
委員D	11月以降に公費で打ちたいと希望した場合、1回目と2回目の間隔をより長く空けた方が効果的であるため、1回目を12月に接種した場合は、2回目を2月ではなく、3月に接種するスケジュールを推奨してよいか。
事務局	そのスケジュールについては、医師のご判断で問題ない。
(5) その他について	
委員長	ズーム会議の開催についてはいかがか。
事務局	ズーム会議できるように体制を整えているが、皆様がこのようにお集まりできる場合、集まっただき、どうしてもお集まりできない場合は、ズーム会議を検討する。
事務局	小児の肺炎球菌や5種混合の接種方法が、4月から皮下接種に加えて筋肉内接種も可能となった。予診票下部に接種方法を記入する箇所があり、わずかだが筋肉内接種をしている医師もいる。筋肉内接種は副反応が起こりにくいと言われているが、この

	ことについてご意見を伺いたい。
委員 D	筋肉内接種はしておらず、筋肉内接種になりそうな深めの皮下接種をしている。4か所接種する場合は、腕に2か所、足に2か所などである。1歳を超えると上腕の上、下で接種することもある。筋肉内接種の正しい方法は、針を真っ直ぐ刺すため、子どもに怖い印象を与えてしまう。よって、深めの皮下接種をしている。
事務局	ガイドライン上、確認する必要があるため、記載漏れがあれば、確認の連絡をする。今後も予診票の接種方法の記載に御協力をお願いしたい。
委員 A	今年度から、高齢者肺炎球菌の接種対象者が65歳に変わったことで、問題になっていることはないか。
事務局	対象者の接種時期も変更になったことから、単純に比較することが難しいが、高齢者肺炎球菌の接種率が令和6年8月末現在で、9.3%と低迷している。65歳では、高齢者の病気のイメージが強い肺炎に対して、予防の意識は低い。今年度から、接種可能期間が65歳の間となり、接種券方式を取りやめ、対象者へ誕生日の翌月に勧奨はがきを送付している。他にも広報やラジオ放送等で周知を行っている。また、医療機関には、65歳の方が受診されたら、肺炎球菌予防接種の勧奨をお願いしたところである。
委員長	62歳の時に、任意（自費）接種された方が、65歳になり勧奨はがきが届いたため、接種をしてほしいと申し出があったが、今回接種はできないと説明すれば良いか。
事務局	任意接種は市での履歴が把握できないため、勧奨はがきを送付することになる。5年以内の再接種は不可のため、公費で接種することができない。
委員 A	高齢者肺炎球菌の接種率は、上半期とはいえ、低すぎる。
事務局	65歳のタイミングで接種することを知らせるために、例えば、65歳で介護保険証を送付する時に、肺炎球菌のお知らせを同封するなど検討している。
委員 A	メディアでの肺炎球菌の予防接種についてのPRは、最近見かけない。
事務局	昨年度は、4月に対象者全員に接種券を送付したところ、4月～6月の接種者数は、各月50人程であり、12月に再勧奨をすると、2月～3月の接種者数は、各月50～60人程だった。よって、個人通知をすると接種者は増えたと考えられる。
委員 C	県の接種率はどうか。
事務局	昨年度は県より市の方が高い。今年度の半期分について、県の接種率は分かりかねる。
委員 A	昨年度は、インフルエンザと肺炎球菌と同時で接種していたため、今年度も同時で接種をした方が、接種率が伸びるのではないか。
委員 D	65歳であれば、たとえ、肺炎になっても治ることが多い。肺炎が悪化するような方は、もっと高齢な方と考える。 病院にかからない65歳は健康であることが多いため、肺炎球菌の予防接種対象が

	65歳縛りというのは難しい。また、通院している方へ周知をしようとする、65歳のタイミングを狙い、他院でいつ接種したかも確認する必要がある。場合によっては、5年以内で接種してしまうことも出てくる。
事務局	他に、健康課の窓口でできることとして、広域予防接種の申請時に、65歳であれば、接種履歴を確認して未接種者へ勧奨している。
委員 A	今後、接種率を上げる対策を検討していただきたい。
事務局	承知した。
事務局	抗体検査後に罹患している場合もあるが、風しんの抗体価の有効とされる期間はどのくらいか。
委員 A	基本、生ワクチンはいつ接種しても問題ない。風しんと診断されたことがなくても、抗体価が高いケースもある。
事務局	終生免疫という考えはあるのか。
委員 A	感染症の発生が少なくなると、ブースターがかからず、終生免疫はなくなる可能性がある。
委員 D	抗体価は、基準を超えていれば罹患しにくい、抗体価が低くても免疫を持っている方もいるし、抗体価が高くても発症する方はいる。
事務局	ご教示していただいたことを参考に、今後も情報収集していく。
3 閉会	
委員長	委員長より閉会宣言